

令和4年度 公益財団法人 地域開発研究所 事業計画

(1) 奨学金給付事業

今年度は新たな応募がなかったため、現在給付を行っている大学生3名に対し、継続して給付を行う。なお、休学により給付を休止していた大学生については、令和3年9月から給付を再開していたが、令和4年2月に辞退の申し出があったため、同月より給付を停止した。また、今年度の理事・監事会に於いて、奨学金制度の変更について役員全員の承諾を得たため、来年度中に変更の手続きを行う予定である。制度の変更に伴い、現役学生のみではなく社会人や一定の目的をもった活動を目指す者を対象とした奨学金の給付事業を行っていききたい。

(2) 調査研究事業

・昭和天皇（皇太子時代）御手植えの松保全管理

昭和天皇が大湊に來臨した際、記念樹として御手植えになられた松の木の保全管理を行っているが、今年度は令和3年10月に剪定作業を行った。歴史的・文化的資産を守るため、今後も引続き作業を行っていききたい。

・柴五郎氏仮住まい跡地の顕彰碑管理

斗南藩の史跡を後世に継承する目的で、令和元年5月に当財団で柴五郎氏の仮住まい跡地の土地を取得し、令和2年7月に柴五郎氏に関わる土地であることを銘記した顕彰碑を建立したが、今年度は顕彰碑の看板の張替え作業を行った。当財団の資産として、今後も管理を行っていききたい。

・青森県内の歴史に関する新聞記事の抽出作業

今年度は、青森県内の歴史に関する資料収集を目的として、青森県立図書館にて新聞記事の抽出作業を行った。「農地改革関係・財閥解体関係・公職追放」等のテーマに絞って、新聞記事のコピーをスクラップし、記事の目録を作成した。今後は、更にテーマを広げて資料収集を行っていききたい。

・高校生の研究に対する助成

高校生を対象に、研究テーマの調査・発表が出来る場を提供していききたい。下北半島の歴史や歴史上の人物について学ぶことで、同地に興味を持つきっかけとなり、今後の地域開発にも繋がるのではないかと考えている。テーマや研究場所等、詳細については今後検討していききたい。

・明治時代の大湊開港についての研究に対する助成

今年度に引き続き、大湊開港についての研究（明治から戦後まで）に対し、支援を行っていききたい。

(3) 地域開発事業

- ・ 下北半島に関わることがらと人物の編纂に対する助成

当財団では大湊開港・斗南藩・下北半島史など、下北半島の歴史に関する調査を研究テーマとしている。今年度は、調査研究事業の一環として、むつ市内の土地を題材にした研究論文を書籍化する事業を行い、書籍制作後は、地元図書館を始め、下北半島の土地制度や歴史について研究を行っている研究者や事業者に対し寄附を行った。今後は、当財団の調査だけではなく、下北半島の近代史に関わることがらや人物についての調査・研究(発表・出版含めて)をする研究者らに対しても、支援を行っていききたい。

(4) 自然保護事業

- ・ 植樹事業に対する助成

NPO法人GEMBUの植樹事業に継続して支援してきており、今後も学校や公共施設への植樹祭を中心として活動の支援を行っていききたい。また、今年度は桜の苗木植樹事業に対して支援を行ったが、植樹による景観の向上や豊かな街づくりを目指す事業に対しても支援を行っていききたい。

- ・ むつ湾海岸整備事業に対する助成

年 2 回行われている海岸整備活動によって、毎年多くの不法投棄ごみを取り除かれ、ハマナスの植樹によって海岸は見違えるほど綺麗になっている。町内会や学校関係者、金融団等にも広がりを見せており、更なる美化・整備のために、今後も継続して支援を行っていききたい。

- ・ 自然維持管理事業に対する助成

今年度は、山林の伐採による土砂崩れの危険から安全を守ることを目的とした山林維持管理事業に対し助成金を交付した。今後は、毎年継続している植樹事業や整備事業に限らず、今ある自然を維持するための管理事業に対しても支援を行っていききたい。

以上